

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	令和6年 10月 28日 (13:10~13:25)
1. 初期支援(はじめのかかわり)	メンバー	村上意知朗、伊藤義則 阿部由佳、榊原順治、高橋英子

◆ 前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか？		9	1		10

前回の改善計画

初期支援は、アセスメント(居宅サービス計画ガイドライン)の項目を確認してモニタリング(状態の把握)をすること。初期カンファレンスは1W位のモニタリング期間後に実施する。

前回の改善計画に対する取組み結果

初期カンファレンスは利用開始からおよそ1か月経過した頃に実施している。初期支援におけるモニタリング結果については日々の申し送り内で情報共有されており、都度課題の抽出および対策を検討し支援内容の微調整を図っている。
ただ、初期支援でのモニタリングにおいて新たな課題が浮上することに伴い、頻回に支援内容を軌道修正することで職員が混乱する場面も見られたため、ニーズと課題、支援内容の共有は丁寧に行う必要があったと思われた。

◆ 今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計 (総人数)
①	本人の情報やニーズについて、利用開始前にミーティング等を通じて共有していますか？		10			10
②	サービス利用時に、本人や家族・介護者が、まず必要としている支援ができていますか？	2	7	1		10
③	本人がまだ慣れていない時期に、訪問や通いで声掛けや気遣いができていますか？	4	6			10
④	本人を支えるために、家族・介護者の不安を受け止め、関係づくりのための配慮をしていますか？	3	7			10

できている点

200字程度で、できていること、その理由を記入すること
 ・初期支援に関しては事前情報に目を通して職員間で情報共有し、何が必要なかを都度検討している。
 ・初めての関わりの際、本人、家族の不安を受け止め十分配慮し接することが出来ており、声掛けにも気を配り、信頼される関係作りに努めている。
 ・自立支援を念頭に置き、利用者本人に対する過剰な支援・介助にならない様に注意を払っている。
 ・初期支援において、家族からのニーズはあるも通い利用に拒否感を示す方に関しては、訪問利用を通じて信頼関係を築いたうえで無理なく通い利用に繋げる事が出来ている。

できていない点

200字程度で、できていないこと、その理由を記入すること
 ・モニタリング、アセスメントに関する教育不足により、モニタリングにおいて何を観察すればよいのか職員間で共有できていないため、必要な情報を集めることができていない。
 ・アセスメントの確認不足によって、事前の情報と実際に訪問に行ってみてのニーズにずれがあった。
 ・本人を関わりの中で理解し必要な支援を探るまで時間を要するため、支援方法が安定していない。
 ・初期支援1週間のモニタリングでは、情報や課題を把握しきれなかった。
 ・初期支援における課題への対策が、カンファレンスで確立されないことが多い。
 ・初期支援におけるカンファレンスが徹底されておらず、現在提供しているサービスが適切かどうかの評価がやや不明確なところがある。
 ・アセスメントの確認不足や、訪問、送迎業務に携わっていないこともあり、利用者一人一人の情報を把握しきれないため、時折過剰な支援・介助をしてしまうことがある。

次回までの具体的な改善計画

(200字以内)

初期支援においてモニタリングすべき内容を明確にし、日々のミーティング内で経過報告して情報を共有する。
 初期カンファレンスは利用開始から1ヶ月を目途に開催し、初期支援における評価を行う。

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	令和6年 10月 28日 (13:25~13:35)
2.「～したい」の実現 (自己実現の尊重)	メンバー	村上意知朗、伊藤義則 阿部由佳、榎原順治、高橋英子

◆ 前回の改善計画に対する取り組み状況

個人チェック項目集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	2	7	1		10

前回の改善計画

カンファレンス内で、本人の中で一番の最大ニーズ(例:これからも家で暮らしていきたい。)が、現在どのような状態であるかを確認していく。

前回の改善計画に対する取り組み結果

日々の関わりの中で「～したい」ことを聞き出すように心掛けており、日常生活から本人の思いを理解しようと努めている。ただ、カンファレンスにおいては当面の目標に焦点が当てられ、「本人の目標(ゴール)」に関して話が及ぶことは少なく感じられた。

◆ 今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計 (総人数)
①	「本人の目標(ゴール)」がわかっていますか?	2	7	1		10
②	本人の当面の目標「～したい」がわかっていますか?		6	4		10
③	本人の当面の目標「～したい」を目指した日々のかかわりができていますか?	1	7	2		10
④	実践した(かかわった)内容をミーティングで発言し、振り返り、次の対応に活かしていますか?		7	3		10

できている点

200字程度で、できていること、その理由を記入すること

- ・本人から聞いた目標を理解したうえで必要な支援を行っている。
- ・本人のニーズを理解し、～したいに向けた対応ができている。
- ・申し送りの際に各自関わった情報を共有している。
- ・ニーズの多い下肢筋力低下予防のため、レクリエーション前には継続的にリハビリ体操を実施している。

できていない点

200字程度で、できていないこと、その理由を記入すること

- ・当面の目標のみでゴールまでは把握できていない。
- ・自らの意思を表現できない利用者の表情やしぐさで本人の気持ちや背景にある事を考えるが、ゴールはよくわからず、それが正しいのか考えてしまう。
- ・訪問件数が増えたり業務の都合で個別支援が減っている様に思う。
- ・下肢筋力低下予防がニーズである方に対し、土日祝日は人員の都合でリハビリ体操を実施できないことがある。
- ・本人の思い(帰宅欲求や利用回数など)への寄り添い方に苦慮するところがあったため、「～したい」を実現させるための関わりができなかった。
- ・目標に対してのPDCAサイクル(計画⇒実行⇒評価⇒改善⇒)が不足しており、評価も曖昧である。
- ・課題や問題点を洗い出して情報を整理することがやや不十分であるため、「～したい(週3回の入浴など)」に対して、対応可能か否かの判断基準が不明瞭かつ検討不足。

次回までの具体的な改善計画

(200字以内)

利用者および家族からの要望が対応可能か否かについては、「法人理念」および「事業所運営目標」を判断基準としたうえで個別支援として検討していく。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和6年11月1日(13:25~13:35)

3. 日常生活の支援

メンバー 村上意知朗、伊藤義則、阿部ゆかり
榊原順治、阿部和志、高橋英子

◆ 前回の改善計画に対する取り組み状況

個人チェック項目集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	1	9			10

前回の改善計画

昼の申し送り内の「検討事項」で、援助内容、業務改善を話し合う。
また介助方法についても、用具を実際に使用して自ら体験することで身に付ける。

前回の改善計画に対する取り組み結果

昼のミーティングで検討事項を話し合う時間があるため、都度各職員が声を出し課題を検討することが出来ている。

◆ 今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
①	本人の自宅での生活環境を理解するために「以前の暮らし方」が10個以上把握できていますか?		4	5	1	10
②	本人の状況に合わせた食事や入浴、排せつ等の基礎的な介護ができていますか?	5	5			10
③	ミーティングにおいて、本人の声にならない声をチームで言語化できていますか?		9	1		10
④	本人の気持ちや体調の変化に気づいたとき、その都度共有していますか?	3	7			10
⑤	共有された本人の気持ちや体調の変化に即時的に支援できていますか?	2	8			10

できている点 200字程度で、できていることと、その理由を記入すること

- 積極的に業務改善を行えている。
- 本人の能力を奪わない支援ができています。
- 利用者の体調変化に気づき、発信・共有・支援している。
- 本人に合わせた基礎的な介護が出来ている。
- 変化に対する対応が出来ている。
- 日々の関わり、言動から気持ちや体調の変化を把握するように心掛けており、申し送り時などで報告している。

できていない点 200字程度で、できていないことと、その理由を記入すること

- 情報収集不足、また、これからの暮らし方をどうしていくかの方に重点を置きがちのため、「以前の暮らし方」を10個以上は把握できていない。
- ゆっくりと本人のケースファイルを読む時間がなかなか持てないため、利用者本人の資料やアセスメントを活用・理解していないため、本人の「以前の暮らし方」を十分に把握できていない。
- アセスメントが不足しており何が出来て何が出来ないのか共有されていないため、チームケアを行うことができていない。
- 関わりが足りていないところがあるため、本人の声にならない声の言語化ができていない。
- その日の状況によって業務内容が変わることがあるため、気持ちに焦りが出て臨機応変な対応ができない時がある。

次回までの具体的な改善計画

(200字以内)

適切な支援を行うために、各自アセスメントを熟読した上で日々のケアに当たっていく。

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	令和6年 11月 1日 (13:25~13:35)
4. 地域での暮らしの支援	メンバー	村上意知朗、伊藤義則、阿部ゆかり 榊原順治、阿部和志、高橋英子

◆ 前回の改善計画に対する取り組み状況

個人チェック項目集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか？	4	6			10

前回の改善計画

事業所内で確認しなければならない情報を共有し、家族や関係者へ、送迎・訪問ノート・はつらつノート・来荘時などで聞き取り確認する。

前回の改善計画に対する取り組み結果

ミーティング内で検討事項を話し合い、職員間で疑問点や確認事項をあげることで、送迎時に家族に人様な情報を聞き取りすることができている。
また、家族と直接会う機会が少ない方に関しては、はつらつノートを通じて確認事項を聞き取って情報を共有することができている。重要性、緊急性の高いものは直接電話連絡し確認している。

◆ 今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計 (総人数)
①	本人のこれまでの生活スタイル・人間関係等を理解していますか？		9	1		10
②	本人と、家族・介護者や地域との関係が切れないように支援していますか？		9	1		10
③	事業所が直接接していない時間に、本人がどのように過ごしているか把握していますか？		7	3		10
④	本人の今の暮らしに必要な民生委員や地域の資源等を把握していますか？		5	3	2	10

できている点 200字程度で、できていることと、その理由を記入すること

- 日々の関わりの中で、その人の生活を知ることが出来ている。
- 必要な情報を家族と共有することは積極的に行っていると思う。
- 本人の生活スタイルやどの様に過ごしているのかを理解している。
- 在宅生活継続の支援が出来ている。

できていない点 200字程度で、できていないことと、その理由を記入すること

- コロナウイルスの影響から少しずつ回復しているが、地域との繋がりがまだ少ない。
- 具体的な方法が分からず、本人と地域との関係が切れないうえに支援が出来ていない。
- 直接接していない時の本人の過ごし方について、独居の方は聞き取りの難しい方もいるため全員は把握できていない。
- 把握する機会、覚える機会がなく、エコマップ、またはそれに代わるものが活用されていないため、本人の暮らしに必要な民生委員や地域資源などを把握できていない。
- 民生委員との関わりが無く把握できていない。
- 申し送り時に発言を控えてしまい、上手く情報発信できないことがある。

次回までの具体的な改善計画

(200字以内)

内部研修を実施して「地域資源」に対する理解を深める。
また、本人・家族に了承を得たうえで民生委員の方々に地域密着型事業所として改めてご挨拶し、地域との関係性を深めていく。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和6年 11月 5日 (13:20～13:35)

5. 多機能性ある柔軟な支援

メンバー 村上意知朗、村上勝彦、佐藤美紀
榊原順治、阿部和志、高橋英子

◆ 前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか？		4	4	2	10

前回の改善計画

地域資源の活用を事業所内で意識するため、「酒田市社会資源ファイルおたすけガイドブック」を使用して、利用者へ情報を提供する。

前回の改善計画に対する取組み結果

現場レベルでは「地域資源」の理解不足により「酒田市社会資源ファイルおたすけガイドブック」が十分に活用されず、利用者への情報提供が不足していた。ガイドブック自体が全職員に周知されていなかった側面もあるため、事業所内での周知徹底を図る必要がある。

◆ 今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計 (総人数)
①	自分たち事業所だけで支えようとせず、地域の資源を使って支援していますか？	1	7	1	1	10
②	ニーズに応じて「通い」「訪問」「宿泊」が妥当適切に提供されていますか？	4	6			10
③	日々のかかわりや記録から本人の「変化」に気づき、ミーティング等で共有することができていますか？	3	7			10
④	その日・その時の本人の状態・ニーズに合わせて柔軟な支援ができていますか？	2	8			10

できている点

200字程度で、できていること、その理由を記入すること

- ・在宅生活が継続できるよう、必要なサービスを本人の状態に合わせて臨機応変に対応出来ていると思う。
- ・その時の本人の変化や状態に気づき、それに合わせた支援や介助を行っている。
- ・ミーティングなどで共有できている。
- ・ニーズに合わせて対応は行えていると思う。
- ・柔軟な支援を行っている。
- ・上手く通い、訪問、宿泊が組み合わせられている。
- ・体調不良などでは通いから訪問に変更したり、通院直後の数日は宿泊利用した後で在宅生活に戻るなどニーズに合わせて支援が出来ている。

できていない点

200字程度で、できていないこと、その理由を記入すること

- ・資源を使った支援を行う機会がない。⇒(対策)地域資源への理解不足については前項「4. 地域での暮らしの支援」での改善計画をもって対策としていく。
- ・現状として事業所でのサービスで完結してしまっているため、もっと地域資源を活用して地域と繋がって行く必要がある。
- ・「おたすけガイドブック」は知っていたが内容を十分に把握できなかった。
- ・在宅生活が困難になってきた利用者について、家族が施設入所に対して消極的になっている場合があり、家族の意向待ちになっているケースが多いと思われるため、もっと家族との相談が必要と思う。⇒(対策)在宅生活の継続や施設入所の判断は本人家族によるものであり、本人の状態変化や家庭環境の変化に伴い事業所として対応が困難な状態となった際に改めて本人家族との話し合いの場を設けていく。

次回までの具体的な改善計画

(200字以内)

居宅介護支援の観点から在宅生活での課題を「家族」単位で捉え、本人だけでなく家族の「変化」に対しても気づきを持ってミーティング内で共有し、適宜相談業務に当たっていく。

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	令和6年11月7日(13:15~13:30)
6. 連携・協働	メンバー	村上意知朗、伊藤義則、阿部由佳 阿部ゆかり、阿部和志、高橋英子

◆ 前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?		4	6		10

前回の改善計画

ケアワーカーが運営推進会議やサービス担当者会議等に参加し、事業所の代表として支援などの説明できる。

前回の改善計画に対する取組み結果

前年度後半に関しては、ケアワーカーや看護師が運営推進会議に出席し事業所の活動についての説明を行っていたが、今年度は管理者が変更したこともあり後任の管理者のみの出席となっていました。

◆ 今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計 (総人数)
①	その他のサービス機関(医療機関、訪問看護、福祉用具等の他事業所)との会議を行っていますか?	1	5	3	1	10
②	自治体や地域包括支援センターとの会議に参加していますか?		4	2	4	10
③	地域の各種機関・団体(自治会、町内会、婦人会、消防団等)の活動やイベントに参加していますか?		9		1	10
④	登録者以外の高齢者や子ども等の地域住民が事業所を訪れますか?		5	3	2	10

できている点

200字程度で、できていること、その理由を記入すること

- ・自治会の文化展に出品し展示を見に行っている。
- ・運動会や資源回収など。高校生のボランティアも受け入れている。
- ・地域での団体の活動イベントに参加したり企画したりしている。

できていない点

200字程度で、できていないこと、その理由を記入すること

- ・サービスの知識が不足しているため、インフォーマルサービスの説明および紹介が出来ない。
- ・会議に参加しておらず、会議内容やサービス機関をよく理解していない。
- ・ケアマネは包括支援センターとの会議に出席していると思うが、個人のケアワーカーは出来ていない。
- ・サービス担当者会議には管理者とケアマネが参加するためスタッフの参加は業務的に厳しいこともあり、その他のサービス機関との会議に参加する機会がない。
- ・地域住民とのふれあいの場がなかなかない。
- ・高校生のボランティア以外で地域住民の来荘はない。⇒(補足)酒田祭りでふれ太鼓が来荘するなどしており、来荘＝来客者が建物に入ると解釈した職員が多かった。

次回までの具体的な改善計画

(200字以内)

今後の運営推進会議およびサービス担当者会議には、当日の職員を厚くするなどし計画的にケアワーカーの出席を予定していく。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和 6年 11月 7日 (13:15~13:30)

7. 運営

メンバー 村上意知朗、伊藤義則、阿部由佳、阿部ゆかり、阿部和志、高橋英子

◆ 前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	1	6	3		10

前回の改善計画

施設見学、窓口相談に来る方へ「利用案内・利用手引き・多機能通信」などの資料をお渡ししながら施設内の案内ができる。

前回の改善計画に対する取組み結果

施設見学者だけに限らず、多機能施設とはどういう使い方が出来る所なのかや、介護サービスについて聞きたいと言う方への説明をした事があった、というケアワーカーがいた一方で、窓口相談に来た来客者に資料をお渡しすることは出来たが施設見学に対応する機会がなかった、との意見が大半であった。施設見学を希望される方の来荘は稀であったため、機会に恵まれなかった結果に至っている。

◆ 今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
①	事業所のあり方について、職員として意見を言うことができているか?	2	5	3		10
②	利用者、家族・介護者からの意見や苦情を運営に反映していますか?	3	6	1		10
③	地域の方からの意見や苦情を運営に反映していますか?	1	7	1	1	10
④	地域に必要とされる拠点であるために、積極的に地域と協働した取組みを行っていますか?	1	6	2	1	10

できている点 200字程度で、できていること、その理由を記入すること

- 利用者や家族からの意見を皆で検討し、どうしたらミスが起こらないかなどの対策の話し合いは出来ている。
- 利用者を支えるための運営を行えている。
- より良い事業所でのあり方を上司に話すことがある。
- ケアワーカーとして、管理者やケアマネージャーから何か意見を求められた際の現状説明は出来ているのではないかと思う。

できていない点 200字程度で、できていないこと、その理由を記入すること

- 管理者やケアマネに頼ってしまう部分が大いと思われ、ケアワーカーによる施設案内はできていない。⇒(対策)理解不足により多機能施設についての説明や案内に不安を覚えるとの職員もあり、土日祝日に関しては現場職員による来客者対応となることから、理解を深めるための機会も必要と思われる。
- 意見や苦情をあまり言われたいし聞かないので、運営に反映していない。
- 「地域の困りごと」に対する動きについては、地域の困りごとや要望が上がってきていない。
- 「地域との協働」への理解不足により、取り組みが出来ていない。
- 電話対応の経験が少ないため、家族や外部から連絡を受けた際に緊張してしまい、上手く受け答えすることが出来ない時がある。⇒(対策)基本的な電話対応マニュアルを作成し、事務室デスクに表示しておく。

次回までの具体的な改善計画 (200字以内)

各利用者家族に事業所に対する意識調査アンケートを実施し、結果を共有して運営に反映させていく。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和6年 11月 8日 (13:15~13:35)

8. 質を向上するための取組み

メンバー 村上意知朗、伊藤義則、相蘇亮、阿部由佳、阿部ゆかり、榊原順治、高橋英子

◆ 前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	3	7			10

前回の改善計画

介助内容(自立している部分、介助の必要性など)を理解し、利用者個別の介助方法がある場合は、事業所内で実際に用具を使用して確認する。介助方法が分からない場合は、直ぐその場で職員内で確認をしていく。

前回の改善計画に対する取組み結果

必要性に応じて利用者個別での介助方法が検討されており、事業所内で共有できている。ただし、個別での介助内容が分からなかった際に、他の職員が業務に専念しているのを見ると声を掛けるのを躊躇する時がある、といった職員もいたことから、声を掛け合いやすい職場風土に改善する必要があると思われる。

◆ 今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
①	研修(職場内・職場外)を実施・参加していますか	1	8	1		10
②	資格取得やスキルアップのための研修に参加できていますか	1	4	4	1	10
③	地域連絡会に参加していますか					
④	リスクマネジメントに取り組んでいますか	1	9			10

できている点

200字程度で、できていることと、その理由を記入すること

- ・法人の内部研修への参加が出来ている。
- ・ケアマネとして事例検討会に参加している。
- ・リスクマネジメントに常に意識し気付いたことがあれば発信するようにしている。
- ・ヒヤリハットがあった際は都度検討し、再発防止に取り組んでいる。

できていない点

200字程度で、できていないことと、その理由を記入すること

- ・参加の機会がなかったため職場外の研修に参加していない。
- ・スキルアップのための研修に参加しておらず、理由としては登録利用者も上限まで増え、毎日の業務(入浴や訪問)に追われているのが正直なところと思う。
- ・勉強時間がないため、資格取得の研修に参加していない。
- ・資格取得を考えていなかったため、資格取得やスキルアップのための研修に参加していない。
- ・ベテラン職員が多く、個々の技量と考え方で仕事をしている事があり、知識・技術の標準化が出来ていない。⇒(対策)1人勤務が多いため、他の職員のやり方(介助・業務)が目に見えないことで自分のやり方に不安を覚える傾向あり。各介護・業務マニュアルが作成されており、基本的な介護は全職員が身に付けていると窺えるため、違反行為でなければ全てにおいて均一化させる必要はないと思われる。また、統一すべきだがされていない対応や支援法に関しては、日々のミーティングで適宜検討していく。

次回までの具体的な改善計画

(200字以内)

生産性向上の取組みとしてタブレットの活用や移乗支援機器を導入することで業務の効率化を図り、事業所の質の向上に繋げていく。

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	令和6年 11月 8日 (13:15~13:35)
9. 人権・プライバシー	メンバー	村上意知朗、伊藤義則、相蘇亮、阿部由佳 阿部ゆかり、榊原順治、高橋英子

◆ 前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか？	4	6			10

前回の改善計画

ヒヤリハット、事故が発生した際は、当日に状況確認と予防対策を行う。
時間が無い場合でも簡易的な予防対策を実施する事で、同日の同じ事故の発生を予防する。

前回の改善計画に対する取組み結果

ヒヤリハット、事故が起きた際には迅速に話し合い、再発防止策が検討されている。また、ヒヤリハットの内容を把握しきれていない事がある、といった意見も聞かれており、新人職員へのリスクマネジメントに関する指導説明が不足していた。

◆ 今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計 (総人数)
①	身体拘束をしていない	9	1			10
②	虐待は行われていない	9	1			10
③	プライバシーが守られている	8	2			10
④	必要な方に成年後見制度を活用している	2	1	2	5	10
⑤	適正な個人情報の管理ができている	6	4			10

できている点

200字程度で、できていることと、その理由を記入すること

- ・人権、プライバシーに配慮した支援を行っている。
- ・利用者の人権を主に考えて行動している。
- ・基本的に人権を尊重した対応をしている。
- ・ケアを行う際は身体拘束や虐待ないように努めている。また、利用者の方々に嫌な思いをさせない様に常に注意して行動している。

できていない点

200字程度で、できていないことと、その理由を記入すること

- ・成年後見制度について、時々、新聞などで目にするが理解していない。
- ・成年後見制度を活用した方がいいと思う場面が無い。対象者がいないため。
- ※利用者の排泄失敗に関して職員間で伝達した際、職員の声量により内容が聞こえてしまったと他利用者から直接指摘を受けた事例が会議内で上げられた。声量に関わらず、他利用者が周囲にいる際には会話の内容に気を配り、プライバシーへの配慮に努めていく。
- ※新人職員によるヒヤリハットへの認識不足に関して、利用者にアザを発見した場合にヒヤリとして扱うケースとそうでないケースがあるが判断基準が分からない、といった理由であった。在宅生活を送る中で「自宅で出来たアザなのか」「利用中に職員による介助によって出来たのか」によって違ってくるため、普段からの皮膚状態の観察および在宅生活において怪我に繋がりがかねないリスクについて家族との情報共有が重要であることを説明している。

次回までの具体的な改善計画

(200字以内)

個人情報保護の観点から広報およびホームページへの写真掲載の可否について適宜利用者家族に意向を確認し、事業所内での情報共有を徹底させていく。